

◇ 乃木將軍籠抜け旅行

帝キネ 現代映畫

原作者 松本純輔
 脚色者 京屋静子
 監督者 深川ひさ
 撮影者 高橋武則
 主要役割
 乃木將軍 小島洋々
 渡守老爺 嵐璃々
 木質宿亭主 濱田英格
 渡守息子與一 沖田見
 渡場村長 喜多見
 温泉宿亭主 片岡紅順
 同番頭 澤村芳之助

町長 長田芳川
 駐在巡查 富野右太衛門
 警察署長 清島綠之助
 書生 花園清
 與一妻お花 富久井
 温泉宿妻 高津部俊明
 木質宿妻 二條玉子
 木質宿妻 鈴木信子
 解説 深川ひさし氏の「彼の日記」に次いで
 製作した現代劇で「陣中の乃木將軍」の姉妹篇
 である。
 略筋——明治四十年秋十月、乃木將軍は書生山
 本を従えて三等列車の人となったが大仰な歡
 迎を好まれず上諏訪の手前で下車し、秘かに木
 質宿に泊られた。後で、それを知った町の有力
 者達はたい／＼恐縮するばかりであった。翌朝
 出發した松本市は、又歡迎で大騒ぎをして
 るた。將軍はまたも途中村井驛で下車し、祖先
 佐々木高綱の墓参を済された。更らに長野、金
 澤、富山方面を巡り、懐しい西那須野で
 車を捨て、一人徒歩で鹽原へ向はれた。そして
 夕の散歩の折、日露戦争で伴與一を失つた渡守
 の老爺と語られた。老爺は將軍と知らず親しき
 物語の中に、將軍に對する無禮の言葉なさへ口
 にした。翌朝それを知つて慚愧にむせぶ老爺を
 將軍は却つて慰めつゝ、與一の佛前に回向をさ
 れ恩賜金で作つたさいふ舟の修理のため、幾何
 か金を残された。將軍の温情は老爺の胸に浸
 みやがて涙となつて溢れるのだつた。